

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携の在り方を探る

I 主題設定の理由

臨地研修による地域素材の共有，授業参観，講演会を通して情報交換を行うことにより，同じ地域の子どもの教育に携わる小中の教職員が，児童生徒について共通理解を図り，系統的によりよい指導を行えるよう，本主題を設定した。

II 研究の内容

1 第1回交流研究会（臨地研修）

(1) 日時 平成26年7月30日（水） 13：30～

(2) 目的 地域内にある企業を見学，その製造過程や努力について学び，地域教材として授業に生かしていく。

(3) 内容 富士食品工業株式会社の見学

2 第2回交流研究会（講演会）

(1) 日時 平成26年11月12日（水） 15：30～ （於 山梨南中学校）

(2) 目的 支援を必要としている子への理解を深め学級指導及び小中連携に生かす。

(3) 内容 「見立て～スクールカウンセリングの知見を実践に生かす～」

講師 石原 香絵先生（笛川中学校スクールカウンセラー）

3 第3回交流研究会（山梨小学校授業参観）

(1) 日時 平成27年1月21日（水） 14：00～

(2) 目的 小学校の授業を参観し，小中の連携の視点から研究し，今後の教育活動に生かしていく。

(3) 内容

ア 授業参観 第3学年 かけ算の筆算（2）

「かけ算の筆算を考えよう」

第6学年 学級活動 学級力向上ファイナルプロジェクト

～卒業までにつけたい3つの力～

イ 研究会

- ・授業についての反省，感想
- ・質疑応答
- ・意見交流
- ・指導講評「授業及び今後の活用学習・学級力向上について」

講師 田中 博之先生（早稲田大学教職大学院教授）

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・臨地研修では、「富士食品工業株式会社」の見学を行った。身近な工場でありながら、全国に流通している有数の工場であることを改めて知った。工場見学では、製品製造の仕組みを丁寧に説明していただき、食品開発や安全など企業の努力等についても知ることができ、授業に役立てることのできる内容であり、大変勉強になった。地域を理解し、地域教材として活用するのにとても役立つ機会となった。また、地元出身ではない教員にとっては大変貴重な経験となった。
- ・講演会では、笛川中学校のスクールカウンセラー石原香絵先生を講師にお招きし、「見立て～スクールカウンセリングの知見を実践に生かす～」と題して講演会を行った。いろいろな問題を抱える児童への対応という、小中共通の課題をとともに学習する機会となった。講演を通し、児童を取り巻く環境を整理し、多面的な視点から観察・支援していくことの大切さを学ぶことができた。また、小中の教職員混合のグループワークという形で話し合う場もあったので、同じ課題についてそれぞれの立場から考え、意見交流することができ、大変有意義だった。
- ・山梨小学校での授業参観及び研究会では、山梨市の学力向上の取り組みによる、3年生の算数の活用学習と6年生の学級力向上プロジェクトを参観し、学び合った。子どもたちの様子を知るとともに、小中連携という視点からともに授業づくりについて学ぶことができた。子どもたちが意欲的に学習に取り組む様子が見られ、これまでの学習の積み重ねが感じられた授業であった。また、教員のかかわりや支援の仕方についても参考になった。
- ・同じ中学校区の先生方と、地域の学習、講演会や授業研究など様々な形で交流でき、ともに学び合うことができた。
- ・それぞれの学校の様子を、様々な交流の機会から知ることができ、よかった。児童生徒に関して共通理解をもち、連携して指導に当たることにつなげていくことが大切だと感じる。

2 課題

- ・小中の具体的な連携のあり方を探るために、学校間の情報交換や交流の場をもう少しもつことができるとよかった。本音で語り合えるような場を、今後も計画的に設けていきたいという意見もあった。
- ・山梨市の学力向上の取り組みとタイアップしての授業公開は、共通の学習の場ともなるが、大がかりな授業提供になると担当校の負担も増すので、普段の授業を見せ合うだけでも参考になるのではないかという意見もあった。
- ・一貫した生活指導や学習指導など小中共通して取り組めるような課題を話し合う機会や、教科ごとの情報交換などの場も考えていきたい。

(ブロック長 三枝 清美)